

業務の新聞

第1号 平成29年 4月 3日

発行にあたって

安全、労働条件そして労働環境の維持・向上・改善は、労働組合の最大かつ最重要の任務です。“賃金”から“スリッパ”まで、「仲間たちの声」をもとに、その実現に向けて仲間たちとともにそのチカラを、職場から発揮することが重要です。

J R 発足から30年!

30年の月日で世間は様々に変化してきました。そのなかで、わたしたちの労働条件や労働環境は、良い方向に“変化”してきたのでしょうか?

エルダー制度、業務委託、安全問題、要員問題、詰所の壊れたままのイス…。

課題は山積です。『業務の新聞』を発行し、問題提起と意識の共有をはかり、知恵とチカラを集めてまいります。

「スピード感」を持って

仲間たちから「詰所のイスが壊れたから！取り替えてほしい」の声が寄せられました。早速、経営側に現実を伝え改善を求めましたが「関係個所に伝えた」との声しか聞くことは出来ていません。

詰所のイスの交換にどのような手続きが必要なのでしょうか?何処との調整が必要なのでしょうか?

現場の“悲鳴”に比して、あまりに「スピード感」がありません。これでは誰も何も言わない会社になってしまいます。

安全・快適・正確は“机上”のデスクワークだけで創造出来はしません。もっともっと現場の現実に着目し現場の仲間たちの声を大切にするように、経営側に働きかけを継続してまいります。

支社に求めます!

「～エルダー制度の～」 「～グループ会社と一体～」 というフレーズが、経営側と労働組合とのやり取りの中で頻りに登場します。

あらゆる系統で行われている“業務委託”の結果、各現場では様々な会社に属する労働者が、様々な雇用形態と様々な勤務形態のなかで、お客さまに安全と快適・正確な列車を“協力”しながら運行させています。

日々の業務や「～グループ会社と一体～」 というようにJ Rにとってグループ会社は不可欠な存在です。しかし残念なことにグループ会社に働く労働者の労働条件や労働環境は、“不十分”と言わざるをえません。

「J R 東日本だけが良ければ…」、とは言ってられません。「～別会社だから～」 という経営側の“都合のよい言い訳”を許す訳には行きません。

多くの仲間たちと語り合う中から「現実」を直視し堂々と改善を求めて行きます。

皆さんの声を聞かせて下さい!

『30周年』を迎えて!

『30周年』を迎え、テレビでJ R 東日本のカッコイイCMが連日流されています。J R が生まれた時には“生まれていなかった社員”もずいぶん増えています。

この会社の『30年』を振り返って見ませんか?

家族はどの様に感じているのでしょうか?

奥さんは・両親は、子供たちは?

お客様はどうでしょうか?

あなたはどの様に感じていますか?

…。

国鉄末期の苦しい時代を経て、“広域異動や出向” “機械化・システム化” …。J R の創生、“効率化” “業務委託” “ライフサイクル” などなど私たちは職場を基軸に時々の施策を担ってきました。J R 東日本を『立派な会社にする為』に奮闘・努力してきました。

労働条件・労働環境や制度・施策の改善など労働組合の課題も山積しています。仲間たちと職場を基軸に奮闘しましょう!!